

内山完造「1953年引揚交渉雑記」

内山完造研究会編

【注記】原資料のノートには、内山完造自身が表紙に「引揚日記 自 1953. 1. 21 至 〃 6. 9」と記しているが、内容は「雑記」であり、1953年6月9日以降の内容も含まれているため、ここでは「1953年引揚交渉雑記」として掲載することにした。

【凡例】解読不能な字は1字につき□1個を付した。また、字を訂正したり補った方がいいと思えるところにはその字を〔 〕内に加えた。さらに、もともと句読点のない文章に適宜それを加え、人名を除いては旧字体を新字体に改めたことをおことわりする。

日本人としての心の寂しさ

私は未だ代表として選〔ば〕れない時であった。此位いの事に失敗する様な事なら舌を嚙んで死んだらよいと放言した。それは人に対しての無責任な放言ではない。

それは若し私自分が行く様なことになったら其覚悟で行くという私への誓言であったのだ。だから選ばれた時に直ちに私は此の行〔に〕私は死を決したのである。内山完造当年にとって六十八才、この度の仕事に失敗せんか生きて再び日本の土を踏まないのである。

何日の会合に出るにも私は一刻も此心を忘れたことはない。処が会合に会合を重ねて見る中に私の心に妙な雲が湧く様になった。それは外ではない、作員問題からである。

私が突然として作員問題の対立的な空気に向って投げた一言も其片鱗であるが、今度はその裏返しともいべき随員とか秘書とかいう問題である。赤十字社長に秘書をつけるといはれる、それは赤十字社としての当然せられるべき社長旅行の習慣である。高良女史が随員を一人是非連れて行くといはれる、参議員の旅行として当然の事であるだろう。然し高良さんはそうは言はない〔で〕、若しも私が病氣した時には困ると言はれる。代表をお止めにはなったが有田さんも私が行〔く〕には是非一人随員でも作員でもよいが、私が若し病氣した時に困るから一人は是非連れて行くといはれた。其後の模様によると皆さんのこうした意見に対して友好協会と平和連絡会とは会として一人づゝ秘書をつれていくということである。それは仕事に必〔要〕ということが条件になって居る。然しこのことについて外務省は、秘書でも随員でもお連れになることについては旅券は発行いたしますが旅費は各自で支払はれることという申出である。

私は此秘書随員問題について初めから連れては行かないと断言して居るのであるから文句はいはないが、一行中に於いて私が七十才に近い老人であることは皆んな知って居る。だから大切な身体だからどうか気をつけて下さい〔と〕いうて下さる。毎の会合七時間八時間であるのでお疲れでせうからは是非出なければならぬ会合にだけ出る様にして下さいと親切にいうて呉れる人も一人はある。其言葉は私は感謝して受けて居る。処が面白いのは、若しも向うで病氣したら困るから一人是非随員をつれて行くという婦人である高良さんが御自分の病氣はそれ程心配なさるのに、老人である私に対して若しも病氣され

た時には困るから秘書は（身の廻りの世話する）連れてお出なさいということはいはれない。旅行の経験のある日赤側の誰れからも私に対して老人の一人旅は色々厄介だから秘書は一人お連れになるがよいということもいはれない。

友好協会、平和連絡会の方では仕事に差支へるからというて各一名の秘書の同行を執拗に喰い下って居ることは、そう大した事ではありません、三人も四人も秘書をお連れになる程の仕事ではありません、此仕事は吾々であれば二人位いに作業員二人も行けば必ず出来る仕事でありますといはれながら、いやそうではない、とても大仕事ですからと主張して秘書四人の費用を国費で負担せよとねばって居る（此ねばりに反対しながらも日赤も高良さんも自分の秘書費用の国庫負担に便乗して居る）。

私は自ら死を決して行く人間である。秘書も随員も問題ではないが、此うして各代表のお考へや行爲を見て居ると、其れが如何に利己的なものであるかということがはっきりと解る。友好協会と平和会議との主張が仕事を楯にして居るのがや、公的な言葉として受取れるが、それさへもが日赤と高良さんが秘書を連れて行くのだからという様なことからの勢力の均衡或は其人によって均衡を有力にせうという様な考〔へ〕の絶無が保し難いとなると、老人内山完造の病気とか生命の問題については同行の六人の代表からも又外務省の人々から〔も〕三団体の全員から〔も〕全く問題にされて居らんことになるのである。

ひが目でいうのではないが、此処には内山という一個野人に対する各自の尊厳が働いて居らんと誰れが保証し得られるであらうか。

一步を譲って其事なしとするもほんとうに老人の生命ということを考えるなら、仮へ内山がどんなに拒んでも若しもの事があった時に他の代表が困るから是非一人同行して呉れというのが当然であると思う。それは二つの会の人々でも日赤の人々にしても若しも私が彼の人々の一人の親であったなら必ずそうしたことがい、出されるに違いないのである。

私の心に妙な雲がか、って来たというのは、此等の人々が日本人として誠に他人に対する心使い無いくことを感じたからである。日本人としての心の寂しさというべきものである。私がこういうことをいうと、あ、——やっぱり内山も一人秘書がつれて行き度かったのだとか自分からはいはないで人からいうて欲しかったのだナー——というにきまって居る。私が此事を書いたのは私を具体的な対象として人々の人間的利己心の反省の材料としたのである。

私の此行〔に〕私は死を決して出発する。遺る者よ嘆くなかれ、慟哭する勿れ。我は永遠に生きるものである。

1953. 1. 15 未明 於東京

ペンを擱かんとして気がついたことは、此時私をこめて全員は三万人の引揚者と其帰りを待つ家族のことを忘れて居るのである。あー恐ろしいことである——。

婦国推進国民大会〔1953. 1. 17〕

議長団	今村〔彰〕先生
大阪留〔守〕家族家族会長	比嘉〔雅子〕女士
日中友好協会	小沢〔正元〕先生
家族会幹事	赤羽〔三郎〕先生

代表団

経過報告	〃	平野義太郎先生
	〃	島津忠承先生
	〃	高良富子女士
	〃	工藤〔忠夫〕先生

〃 畑中政春 〃
 〃 加島敏雄 〃
 〃 内山完造

○愛知県では留守家族の名簿は見せて呉れない。

○墨田区役所未帰還者名簿は生命に関する云々と云うて居る。

○外務省では倭島局長が出発に際して名簿は出すなどということであったからと云うて出さない。

留守家族の心理

中国政府が十二月一日在留日本人を三万人帰国させるという放送を聞いてアツばかりに夢心地になった。それは無理もないことである。七、八年或は十数年間、今日は帰るか明日は帰るかという便りがないながらも帰る日を待ちこがれて居り、而もつい先日、とても帰ることは困難であるという様な報告を聞いて居った矢先きであっただけに、其新聞記事は全く欣喜雀躍するものであったのだ。然し日本では一口にたゞ抑留者というて一切の日本人は虐待されて居る様に伝えられて居るのであるから此新聞記事はいやが上にも留守家族の人々を喜ばせたのである。

そこで矢もたてもたまらず、どうか一日も早く帰ってきて欲しいという心の願いは何日ともなく已に乗船でもしてたかの様になり、気の早い人々はもう二三日の中に互いに手を取るのだという様なげん風にまで発展する人もあるのは決して無理からんことであるが、而もそれは個人的又家族的の感情にのみ根ざした考へであるということに一向に気のつく人がないらしい。之れはそんなことを思へというのが無理かも知れないが、而も私は其処にいい知れぬ淋しさを感じるものである。

然し極めて僅かではあるがこうした中に、主人は恐らく帰国しないであらうと思います、そこでどうか私は子供と共に主人の下へ行き度く思いますからどうか行くことが出来る様にして下さい、という人があることに何程かの慰めを得て居るのである。

とはいえ極めて少数でもよい、日本へ帰って働らくも中国の土地で働らくも共に東洋の土地で働らくことである。特に今や目覚めて来た東洋人の一人として戦前まで日本の為のみ働らいて来た其力を同じ東洋の為に働らくという共同の働らきをしたいという考へであって欲しいと思うのであるが、今日まで一人の人からも其言葉を聞くことが出来ないことが淋しいのである。然しそれが私は留守家族の人々の頭と在華邦人の幾分かの人々との頭の喰い違いであらうと思うのである。必ず在華邦人中の若い人達の中には何程か私の考へと同じ、又は近い考への人があるに違いないと思う。

又考へは違いが革命のスリル的興味に若い人が引きづられることも必ずあると思う。吾々日本人は革命というものを知らんから家族の人々は此点には全く無知であるが、実際革命の中に生活して居ると若人の野心が勃々と台頭する人も少からずあると思う。此うした人々は日本の様な土地で働らくよりも革命という新天地に働らくことに引かれるのは当然であると思う。

こうした人々の為に妻子を送ることは当然しなければならんことであると思う。兎に角、留守家族の心理はたゞ帰国して貰う一点張りであることは間違いないことである。そして少しも日本から外の土地に働らくことを考へて居らんことはまさに時代錯誤であると思う。現在の日本人は東洋的にならねばならんことを自覚して欲しいのが私の心である。

1953. 1. 21

代表団への要望

代表団に対しての要望というものが多く出た。未だ未だ多くの方面から出るに違いないと思うが何れの要望も中国という相手のあることを考へないか、考へても相不変日本が優越的地位〔置〕にでもあるかの様な態度の人が多し（実は少数であるが要望する人々の中では）のは驚くばかりである。

今日も日本健青会という、会長が誰れで何百人の会員を有するのか知らんが、国民は国民はと切〔類〕りに国民を振りかざして読み上げられた要望書なるものを聞いて一層其感を深くした。日本が時代的に逆行しつゝ、あることを自ら自覚させられた。

○1. 26. 午前十時又は十一時、外務大臣

(代表団)	高良	┌
日赤選挙	鳥津	
〃〃	工藤	
平和〃	平野	
〃〃	畑中	
日中〃	加島	
〃〃	内山	
工作	中村	
〃	林	
〃	氷見	
〃	岩村	
〃	櫻井	
〃	└平垣	13人

1. 26. 23〔時〕羽田発

天地を逆にしたような東京の夜景を天上から見ながらゴウゴウの勇ましく私たち13人の乗った飛行機は一路香港に向って快翔した。羽田での人の渦、一寸一枚、一寸話して下さいという録音ニュースなどに、もみにもまれてクタクタになっては居るがどうも爆音が大変で眠れない。

350 部隊 蠅の 52,000,000 匹 蛇 1,372 匹

蚊は 28□〔斤?〕

(五月の蠅と十月蠅)

北京には蠅が居ないという。上水、下水、を考へる必要がある。西山玉泉山からの水売車の音、掘抜き井が義和団事変の時北京を攻落した聯合軍が水に困って造ったのが初めて日本から教師を雇って北京工芸学校でサク泉を習って其後サク泉が沢山になった。水道も出来て今は大変上水がよくなった。

下水は明の時代からのまゝであって最早何百年になって居った其下水を改修した。33,800 公〔里〕

龍鬚溝が暗渠になり金魚池が実際の池になり

陶然亭 墓を沼を (賽金花の墓)

龍潭 墓を沼を ドライヴウエー

胡同 滲水井

〔	虱退治	百部草	3 匁
		アルコール	30 匁に浸す
		三日後	

水溜を填めたこと。犬も猫も居ない。

犬が居ない、猫が居ない。農村に犬が居らん。

泥棒が居らんから犬はいらない。痰を吐く人がなくなった。手鼻をカム人がない。

キレイになった大理石の石ガキ。

思い出して

今度の北京往復で最後の会見公報への署名を非常に急いで、どうしても三月五、六日に出発しなければならんという主張をした一行中の二、三の人々の言行は、まさに自分が帰国とともに参議院ギ員として選挙に出るということがあったのであることが其結果として見る事が出来た。何んという浅はかなことであらうか。私は第一回船には一人づゝ代表が乗って帰るべきであると主張したのであるが誰れも賛成しなかった。それ等の原因がみんな参議〔院議〕員選挙に出馬するということであったことを知って私は其浅薄さに眼を丸くしたのである。而も立候補者三人の中、高良さんだけが高点で当選して、外の平野、畑中の二人がみじめな落選をしたことを見て私はクスクスと笑いたくなったのである。選挙の皮肉にである。

1953. 5. 22 於湯郷

帰国漁船員

四月上旬 三隻 147名

青島 三隻 38名

尚ほ漁船 110隻 326名

(〔第〕13・15喜久丸〔第〕1・2大衆丸 44名は帰国した)

講演内容

○日僑帰国問題

紅十字会との交渉

○日本の政治、社会が腐って居るか居らんか。岡山の某アパートの持主の息子が大蔵省に勤めて居るといふ関係で三階建のアパートが一文も金を出さないで住宅公庫の金で建築が出来て、而も其アパートはアパートとしては貸さないで持主の営業である旅館の分館としてモグリ旅館に使用されている。

○今中国で行はれて居る色々の事は強い権力によって強行されて居るのでせう、

○今の様に権力の強行をすれば人間の欲望を封じるから働らく意欲がなくなるであらう、

○今日でも文化という点では日本は中国よりも優れて居るでせう、という様な質問がある。私の答へは或は桁はずれであるかも知れないが、

① 強い権力で行はれ、強制されて居るか居らんかも解りませんが、見た処ではどうも強権によって行はれて居るとは思はれない。元来権力による政治をしないという事が解放の主題である。権力からの解放という事が其主題であるのだ。

② 人間の意欲には色々ある。つまりは欲望ということであるが、名誉欲、金儲欲、活動欲、成功欲等色々ある。だから私の欲望である金儲欲が出来なくなったから人の欲望が全部なくなったとは考へられない。名誉欲が不可能だからあらゆる欲望がなくなったというものではない。意欲には色々ある一つの意欲が不可能になれば、別の意欲がなくなるというものではなくて、変った意欲が出て来るものである。窮すれば変じ、変ずれば通ず。

伊達政宗座右銘

1 仁に過ぎれば弱くなる

2 義に過ぎれば固くなる

3 礼に過ぎればヘツライとなる

4 智に過ぎれば嘘をつく

5 信に過ぎれば損をする

以上政宗の座右銘ということだ。

1—4 までについては今言はないことにするが、5 についていうと信に依って儲け様とする考へがある様である。之れは大きな間違いである。信を証明することによって儲かることは今日の日本ではとても駄目である。信ずることが過ぎると損をするのではない。信ずると損をするのが日本の現実である。

中国革命と墨子

今度の解放によって中国は大したことになった。現在の状態は誠に理想的に進行して居る。其時に考へさせられる問題が一つある。つまり指導的地位にある人々の生活実践の厳しさである。其範を墨子から借りて来て居る様である。特に現在平和を提唱して居る。それと墨子の兼愛非攻等も多分出て来ると思うが、特に勤労主義が其生産面に見られる。之れは今日の増産運動であるが、節約運動はつまり節用論である。節葬も当然いうて居る。今日の毛沢東は墨子復活とも云うべき？ 今日の服務ということは墨子勤労主義の主張が勤労を人間の義務としたことと全く一致して居るのである。

今日も中国の生産の大部分は農業である。農業は何んとしても勤労を資本とするものである。即ち増産の手段として勤労は当然である。勤労は墨子経済の積極面である。勤労に区別のあることを認めたのは賢い方法である。節用は即ち墨子経済の消極面である。墨子の説は実用が主流である。

墨子は利己心を乱源と認めた。兼愛と交利によって平和を得んとするものである。自らを愛するが如く直ちに他人を愛すること、自らが利する如く他人をして利せしめること、之れによって世は平和になるといふのである。

批評

批評が白であったり黒であったり紅であったり黄であったりするのとは当然すぎる程当然なことである。然し如何なる批評も自己の利害が其中心であってはならぬ。飽くまで自己利害の外に立ってなされなければならぬものである。

新中国の批評が色々あるのは当然である。たゞ此等の批評の何れが正しいかということについては其一つ一つが果して自己利害の外に立っての話であるかないか、これを考へなければならぬのである。然し何れにしても決して絶対はないのであって、相対的に自己の利害から離れて居るのは何れの批評に多いかということが問題であるのだ。

現在行はれて居る新中国に対する批評の二色の中、何れの批評が自己利害から離れての批評であるかを吾々は考へなければならぬ。そして次ぎには其数である。何れの批評が多いかということである。

処が批評ではない、体験だといふのである。之れは間違いのないのだが、それでは誰れでもの体験がそうかといふと、それはそうは行かない。白い体験の人もあれば紅い体験の人もある。黒い経験の人もあるのだから一人の体験で全体を決めることは出来ない。無論一人より無い場合はその人の経験だけであるが、今度の様な場合には何にしる三万人という人が帰国する。それは何れも同じ中国での生活経験者である。無論場所違いの人もあるが、其体験者の中、白い人が多いか紅い人が多いか黒い人が多いかである。私は断言する。現在の中国帰国者の大多数は中国の善いことをいうに決つて居るのである。少数体験者の体験は此際除外例的存在でよりないのである。

1953. 6. 9 車中にて

1952〔年〕の収入と支出

各種租税の収入 96 兆 2182 億元の実収であつて予算より約 5% 増。

国営企業の収入 46 兆 5788 億元の実収で予算よりも 26% の増。

信用貸付と保険からの収入 2 兆 5100 億元の実収であつて予算よりも 56.49% の減△。

その他の収入 43 兆 9711 億元であって予算よりも約 71% の増である。

だから合計にすると収入総額は収入予算に比べて 19.15% の増収となった。実収総額は 189 兆 2781 億元であった。

1952 [年] の支出

国民経済建設費 73 兆 0699 億元であって 126%, 即ち約 26% 過剰支出。

社会文化教育施設費 22 兆 3325 億元であって 110.64% で約 11% 過剰。

国防費 42 兆 7770 億元であって 96.39% であるから約 4% 支出減。

行政費 19 兆 3369 億元であって 85.17% であるから約 5% 支出減。

その他の支出 5 兆 7023 億元であって 83.36% であるから約 17% の減であった。

繰越 26 兆 0595 億元。

1953 年の収支予算

総収入 233 兆 4991 億元

総支出 233 兆 4991 億元

収入各種租税 114 兆 6852 億元 (即収入の 49.12%) 約 50%

1 此中工商業税 37.46% であって, 農業税 10.99% である。其他 0.67% である。

2 収入 国営企業及地方国営企業の利潤と原価償却費の繰入金

69 兆 9852 億元で収入の (即収入 29.97%) 約 30%

3 収入 信用貸付と保険

10 兆 2800 億元 (即収入の 4.4%) 約 4.0%

4 其他の収入と前年度の繰入金

38 兆 5487 億元であって, (即ち収入の 16.51%) 約 16.0%

以上は収入

日本の行政費四千億ということである。

400,000,000,000 円

政府収入の四割に当たるといふ。

1953 年収支予算

支出

(1) 国家建設費 138 兆 3351 億元 (即 59.24% であって) 約 59%

(イ) 国民経済建設費 103 兆 5276 億元 (即ち支出の 44.34%) 約 44%

(ロ) 社会文化教育費 34 兆 8075 億元 (即ち 14.9% であって) 約 15%

(2) 国防費 52 兆 2537 億元 (即ち 22.38%) 約 22.0%

(3) 行政費 23 兆 7796 億元 (即ち 10.19%) 約 11%

(4) 予備費 15 兆 4837 億元 (即ち 6.63%) 約 6.5%

(5) 其他支出 [3 兆 6470 億元] (即ち 1.56%) 約 1.5%

以上

翻身

中国では今翻身ということがいはれて居る。それは今迄の農民労働者達が全く其生活が変わったことをいうのである。

七月十九日 松本図書館

朝八時十分新宿発で雨の中を出発した。午後一時四十分松本着。出迎への人と共に浅間温泉坂本の湯に一服した。浅間温泉は初めてあるが静かな好い宿である。午後四時から信州大学での図書館総会での講演である。

会場は信州大学の中であった。聴衆も少なかったが、然し例によって十分成功はした。夕食は宿で二十名ばかりの会食であったが、此処でも色々質問があった。食後直ちに車を飛ばして松本駅発九時四十七分の列車で出発した。二十日朝四時四十六分新宿に着いた。午後一時に農林省から迎ひの車が来たので行く。随分遠い処であった。

呉山へ寄ることにしてあったのだが、とうとう寄らないで帰った。汽車には弟が先きに行って居って呉れることになった。長谷川君が誰れか一人同伴して行くというので私は暫らく後れて行くことにした。

天竜川、阿部〔安倍〕川等が増水で危険だから出来るだけ早い汽車で通ったがよいとの事で銀河で出発することにした。

長谷川君が王君と二人で同伴して来た男は例の上海で中島成子と同居して居った北原辰夫と何かやって居たと噂されて居った田尾某という人であって、長崎の大洋漁業の社長とか重役とかと親しい間柄であるとかないとかいうことで是非会って呉れとかいうことであった。そこそこにして帰って貰うた。小沢君が来て居って留守中のことを話して帰った。夕食をして雨の小止みの中をバスで行く。妹が見送って呉れた。

銀河は案外お客は少なくてのびのびと寝て来た。朝京都へ着いたが今日は出迎へはない。山中君の家へ行く。未だ寝て居ったが起きて呉れて大変厄介をかけた。十時になってやっと日中友好協会と連絡がとれて立命館大学の武藤先生と山田さんと来て呉れたので早速出発した。府庁の車を一日中借切って居るとの事であった。蜷川知事を訪問した。ナカナカ訪問者が多いのだが、会って暫らく漫談した。此知事、漫談が好きな京名所の手拭いを二本呉れた。暫らくで出発してスター食堂楼上の会に出た。

末川立大学長や高山市長が列席して呉れた上に、男女九十名に近い会合であった。色々話した処がとても共感を得てとうとう此会合で日中貿易の進行と中国視察団を出す様、当局へ要望せよという説が出て、遂に満場の可決となったという騒ぎになった。

会場への途中、島津製作所へ寄って呉れとの事で寄った処が之れは又馬鹿にして居る。例によつての資本家の常套手段である。自分の処へ呼びつけて話を独占せうとするだけのことであって之れは少々不満であったことだけは記して置く。

平安寮という府庁の寮で一と風呂浴びて夕食をして立大の新築の大講堂へ行く。会場は申し分ないが、聴衆は甚だ少なかったがゆっくりと話した。

高山市長が宿の用意がしてあるといふので、迎いに来て呉れた山中君の方を断つて、出迎ひの秘書に案内されて南禅寺畔の市長の公宿へ行って一泊した。

楽しい夏休み

日本では学校へ行くということは重い荷物を負うことらしい。ということは日本では学校の休暇は楽しいこととなって居るらしい。新聞には楽しい夏休みとなって新聞も雑誌も書いて居る。此処には大きなむじゅんがある様に思う。楽しい夏休みという楽しくない学校行きとか重荷の学校とかいうことに

なって自然に学校に対する考へ方が反対になりはせんか。其処には学校へ行くのは卒業免状を貰いに行くとか形式だけ行くとかいう事になる様にも思はれる。

弁当

毎朝の子供の弁当を造るのはお台所の一仕事である。それは子供達と同じお菜が毎日つゞくと、とてもイヤがるのである。其れは子供達の変化を好む心からではあるが、そうしたことから出来るだけ子供が喜ぶ様にと毎日お菜を変へてやる習慣がつくと、いよいよ子供の変化を好む心ははげしくなってくる。

大体子供を喜ばしての育児というものは丸呑みには出来ない欠点があるのだ。喜ばすことは悪いことではないが、それが習慣になると何日でも喜べるものという様になる。それが問題であるのだ。お弁当のお菜は毎日変るものと考へる様になるから同じお菜に文句をいう様になるのだ。それを聞くからいよいよ毎日変らないと承知しなくなるのだ。

日本人の弁当のお菜の変化は子供だけではなく大人になっても同じである。日本人は毎日同じお菜を持って行くと恥と思うのである。中国人は大体弁当というものを持って行かないのであって、勤め先きで食事(包飯)をするか当家飯なんかを食べに行くことになって居るのであるが、私が見て来たことからいうと毎日同じものを食べて平気である。私の店の番頭から小僧達まで毎日大餅二つに洋蔥麵一碗が毎日の中食である。それは年中同じことというてよい。

1953 年度納税状況

国営企業と合作社の納める租税と利潤が国家の収入中にしめる比率

1950 34.08%, 1951 49.35%, 1952 56.33%, 1953 59.79%[○]

農民の納める租税が国家の収入中にしめる比率

1950 29.63%, 1951 18.17%, 1952 17.08%, 1953 14.56%[○]

◎私営工商業が納める租税が国家の収入中にしめる比率

1950 32.92%, 1951 28.66%, 1952 24.06%, 1953 22.36%[○]

◎印の工商業者の納める所得税以外の租税は、実際には消費者大衆の納めるものである。とりわけ労働者と農民が負担してるものである

(文化) 教育

1953 年度文化建設

本年度は小学校教育は、生徒数を大体五千万人を限度として質の向上をはかる。

初級中学生数は 2,340,000 人, 高級中学生数は 370,000 人,

労農速成中学生数は 34,000 人, 中等技術学校生徒数は 337,000 人,

中等師範学校生徒数は 360,000 人,

大学, 専門学校学生数は 220,000 人

1953 年度都市病院ベット数 94,000 床, 慢性病患者ベット数 45,000 床

1953 年度巡回映写班 2,000 班 4,040 班, 幻燈機 20,000 台 40,000 台

三反と五反

〔三反運動というのは、〕人民共和国の各級機関と人民団体との間に行はれた汚職、浪費、官僚主義に

反対する運動であって、1952年の一、二月頃から始められて十月末に一応終わったのである。

- ① 汚職事件は基本的にはなくなり、
- ② 浪費は阻止され、
- ③ 国家機関の官僚主義の傾向に有力な打撃が加へられた。

五反運動というのは、一部の私営商人や資本家が行った共同綱領を守らない五種の不法行為のことであって、

- (1) 政府機関、人民団体の工作員に賄賂を贈ること
- (2) 脱税と盗税
- (3) 国家の資材の横領
- (4) 原料と仕事のごまかし
- (5) 国家の経済情報の窃取

以上は用語の注釈である。

長崎入り

一度失敗した長崎入りがいよいよ八月二日の雲仙号で午後五時実現した。駅頭で〔長崎〕日々新聞のインタビューをした。三日の朝刊に大きく写真入りで出た。松尾哲夫県議や小柳事務局長等の出迎へを受けて、高橋さんで御厄介になる。五十崎君が来て呉れて暫らく話した。茂君が病気で入院中の由、田中丈平君も壮健の由、高橋廣志君が未だ長大教養部で勉強中との事だ。

朝の散歩を廣志君と二人で崇福寺に行く。長崎五勝の一、聖寿山の額は昔ながらの唐門の上にかゝり、両脇には吉祥如意があざやかである。第一峰の門をくゞって海西法窟を見上げながら大釜を見る。即非〔如一〕の在住した寺だけに立派な文字が沢山ある。長崎港を大観するには矢張りよい位置である。魚屋さんと角の煙草屋さんに挨拶して帰った。田中丈平さんが来て呉れるとの事だ。

長崎日々新聞が大きく取扱うて二日もつづけて写真入りで報道したので、三日夜の労働会館の一般講演会は客は超満員の入りであって、ウダル様な暑さの中で三時間の長講を見事釘づけで聞かした私の雄弁には、私自分も亦た驚いたものである。

(日本の水田面積は約 3,000,000 町歩)

中国の治水工事 朝日新聞 1953. 8. 18

中国の四年間の水災による面積

1949	100,000,000 畝 (六百万町歩)
1950	60,000,000 畝 (三百六十万町歩)
1951	21,000,000 畝 (百二十六万町歩)
1952	16,000,000 畝 (九十六万町歩)

中国の災害は、水害、旱天、虫害、暴風、黄塵である。

自然改造は、治水、植林、虫害防除の三種である。

治水工事としては、十年九不収の淮河、十年二決の黄河、及揚子江の分洪工事。

淮河の工事完成の暁は六千万人の人民と二十二万平方キロの水害が無くなる外、五千万畝 (300 万町歩) に引水が可能となる。淮河 1,100 キロの流れに沿う大長堤の築堤と河道の泥上げ、引水、用水路の開さくの外、河南水源地帯のダム 13 ヶ処貯水量三十五億立方メートル、安省の水源地及湖沼地帯数十のダムは貯水量八十五億立方メートル。

已に淮河ダム七億五千万立方メートルは完成 (六月三十日)。

近く完成するのは仏子嶺ダムである。四億七千万立方メートルがある (已に完成した)。発電能力

8,000 キロワット。

○永定河改修中の官庁ダムも已に完成した。

黄河大防沙林（七月十日）調査完了（121,000 平方キロ）、長サ二千キロの堤防の補強。

長江中流の荆江の大ダム

荆江北岸に巾 30 メートル高サ 16 メートル長サ 133 キロを築いた。外に南岸に新たに面積 921 平方キロ（ビワ湖の 1.3 倍大）の貯水量 5,500,000,000 立方メートルを建設した。労働者 5,000,000 人、住民 12,000,000 人、軍隊 200,000 人が動員されて七十余日で完成した。

水門の長サ 1,026 メートル、全開時の流量は一秒 12,800 立方メートルという巨大である。平時引水量は八百万畝（四十八万町歩）である。

此外永定河の官庁ダム、遼河水利、沂水、沭水の河道の開さく、新疆省の大用水路長サ 700 キロ。外に小型のクリーク、貯水池三百三十六万ヶ処、用水井六十六万ヶ処が造られた。

◎三年間の労力は治水に 20,000,000 人で延人員は実に五億人に及び、完成した土木工事は実に十七億立方メートル（パナマ運河十本の土の量だ）、堤防工事は四万二千キロに及んで居る。

ソ聯の先験に学ぶもの

◎中国の此の建設大工事は已にソ聯に於いて経験済である。其先験に学んでの施工である。

興安嶺防沙林は、山海関から齊々哈爾迄 1,100 キロ巾 300 キロ面積 300 万頃（一億八千万町歩）に上る巨大な森林地帯を十年間に完成させるというもので、防砂面積は 1,800,000 頃（10,800,000 町歩）である。即ち毛沢東長城というものである。

沿海防風林は安東から長江口に至るもので、東北、華北、華東三行政区に跨る大防風林事業に已に国民運動として三年間に面積 1,350,000 頃（9,040,000 町歩）が出来た。1953 年には 1,500,000 頃（10,050,000 町歩）を植林するというて居る。

以上、百年河清は昔のことであると報じて居る。1953 年 8 月 18 日

◎土地改革終了人口と地域

四二〇, 〇〇〇, 〇〇〇人

四七, 〇〇〇, 〇〇〇ヘクタール（一ヘクタールは 100 平方メートル）

小作料 1 ヘクタールについて七六〇キロであるから 47,000,000 ヘクタールで約三千万頃であった。其三千万頃が農民自分の収入になったのである。

中国の貿易

中国とソ聯圏諸国との貿易は、1950 年には中国総貿易額の 26% であった。1952 年には 72% になった。いよいよ多くなる。

中国第一次五ヶ年計画 1953（予定）

1952 を 100 としての 1953 の目標値

銑鉄 114, 鋼塊 123, 石炭 100, 発電 127, 銅 139, 鉛 149, 亜鉛 154, 工作機械 134, 苛性曹達 131, セメント 117, 木材 138, 綿糸 109, 綿布 116, 紙 106, 砂糖 123, 穀物 109, 棉花 116, 茶 116

前進座 河原崎長十郎

訳本

郭沫若詩集 須田禎一

屈原（郭沫若） 須田禎一
太陽は桑乾河を照らす（丁玲） 坂井徳三
子夜（茅盾） 尾坂徳司
原動力（草明） 三好，宇田
女人転身（孔厥） 斎藤秋男
新中国教師の父（陶行知） 斎藤秋男
李有才板話（趙樹里） 鹿地亘
李家莊的変遷（趙樹里） 島田，三好
離婚（老舍） 竹中伸
阿 Q 正伝（魯迅） 田中，中沢
霞村にいた時（丁玲） 岡崎俊夫
風波（魯迅） 神谷衡平
白毛女 島田，坂井，宮崎
平原烈火（徐光耀） 桑島信一
毛沢東選集第四 刊行会
劉少奇著作集 刊行会
毛沢東選集学習参考 刊行会
毛沢東文芸講話 鹿地亘
毛沢東戦争論 内山信三
毛沢東民族戦線統一論 杉田重夫
中国新民主主義革命史 岩村三千夫
四世同堂 鈴木，桑島
駱駝祥子 竹中伸
人渣 三好一
蝦球物語 島田政雄
秋（巴金） 島静子
春（巴金） 島静子
雪（巴金） 島静子
家（巴金） 島静子
八路軍（燕宿崖） 春日明
青年毛沢東 島田，玉島
趙子曰 奥野信太郎
生きて居た同志（陳登科） 竹内実
海濤

（面会）

郭沫若（副総理），許広平，馮乃超，李初梨，沈端先（夏衍），李達，于樹徳，彭康，鄭伯奇，胡風，
馮雪峰，歐陽予倩，田漢，陳文彬（青今），周建人，
馬宗傑 上海淮海中路諾曼地公寓 805 号
康天順 中央政府新聞局

考察事項

○北京其他各地の学校劇の状況

城戸武之氏依頼

○インドチャイナ銀行のL/Cに就いて

翻訳懇話会

北京、日本で日中友好協会内の翻訳懇話会が、両者の好意的了解で翻訳懇話〔会〕の独立する考へがある。

懇話会の希望

○残留者の甲乙のテープレコードを持って来ること

○中国の新映画を持って帰ること

○国際書店に日本雑誌としては前衛、人民文学の二種よりない（南さんの話）

◎中国の新進作家の略歴と写真を送ること（並びに作家全体のもの）

◎北京の連絡先は文聯のみか尚ほ他にあるか（文学、社会科学）

◎中華全国文学芸術界聯合会、北京東四頭条五号 電四局 3126

○ナウカ社のソ聯出版物は全部一年の前金契約でやって居る。これを中国出版物に適用すること。

（岡崎氏が丁玲女士への心使い）

◎原著者への翻訳書の謝礼に対する送金の方法として、日本書物の希望書を送るから翻訳懇話会へ申込んで呉れる様

◎中国文に訳されて居る日本の書物の書名を調らべること

◎中国側で日本出版界への要求を聞く事

◎日中友好協会の対者として中日友好協会の出来ることを了解事項とすること

（中華学校問題）

◎横浜の中華学校が二つに分れた。台湾派と中国派

120人 600人

依頼及托送品〔以下、省略〕